

## 第 13 回木津川出張所管内河川レンジャー運営会議

### 議事概要

日時：平成24年2月23日(木) 14:10～16:50

場所：CIKビル4Fキララホール

出席者：委員14名、事務局8名

#### 1. 決定事項

- ・田中河川レンジャー、山田河川レンジャーの1回目の再任、福井河川レンジャーの2回目の再任が決定した。
- ・木津川出張所管内全河川レンジャーの平成24年度年間活動計画が決定した。
- ・平成24年度新規河川レンジャー展開計画について決定した。木津川出張所管内の推薦人数は1名である。
- ・山田河川レンジャーが運営会議代表河川レンジャーとして選任された。

#### 2. 意見等（・意見、→直前の意見に関連した議論）

##### ■代表者会議における議論および報告について

- ・グループレンジャー制度等について学生と話したが、あまり良い反応は得られなかった。人と違ったことをすることに対して抵抗感があるように思われる。
  - ・単位が取れるなら学生は参加するだろう。大学の講義、単位とグループレンジャー制度をうまく組みあわせることができるかが課題ではないか。
  - ・就職に有利になるなどのメリットがあると魅力が高まる。河川レンジャーの活動経験をもつ学生は公務員に最適ではないか。
  - ・同志社大学にはプロジェクト科目という制度があり、比較的制約が少ないので河川レンジャー活動と相性がよい。今後学生に呼びかけていきたい。
  - ・若年層をどう川に近づけるかは大きな課題である。木津川の活動に参加された子連れの母親から、子どもの頃から川に親しんでおらず、河川レンジャーの活動がなければ川に来なかったという話をきくことがある。
- 今の親世代は高度成長期に子ども時代を過ごし、川に近づかない世代であり、川での経験がないが、子どもたちは川に関心があるから活動に参加するのだろう。その子どもたちがいずれ河川レンジャーになることを期待したい。
- ・「いい川」は人それぞれだが、河川レンジャーの活動を知るまで、木津川は「いい川」だと思っていた。そうではないことがわかったのは河川レンジャーのおかげである。

## ■平成 23 年度年間活動報告について

- ・不動川の砂防堰堤は子どもたちが砂防を学ぶよい教材となる。ぜひ近隣の自治体でも学習に活用していただきたい。
  - ・活動の参加者が後日別の活動にスタッフ参加してくれるなど、多くの経験からさまざまな成長が見られている。
  - ・木津川の水質が 1970 年代以降、良くならないことに危機感を感じている。水質問題はまちづくりと大きな関わりがあり、自治体との連携・協力が不可欠である。今後も水質データの提供を行いたいので、協力をお願いしたい。
- 自治体としてもぜひ継続的なデータ提供をお願いしたい。近隣自治体のデータは貴重であり、公共下水道の取り組みなど、まちづくりの検討に役立てていきたい。
- ・イタセンパラは絶滅してしまったのか。
- 施設で人工的に増殖・保護されている状態である。実験的な放流も行われているが、定着率が低いようだ。木津川全域に出没するヌートリアも二枚貝を捕食することがわかっており、二枚貝に産卵するイタセンパラにとって脅威である。- ・イタセンパラ復活が目標ではなく、イタセンパラがすめる環境を木津川に取り戻したいと考えている。

→「いい川」は人にとってだけでなくあらゆる生物にとってどんな川がよいか考える必要がある。失われた木津川らしさをどう取り戻していくのかを考えなければならない。

  - ・防賀川植樹について、樹種選定の基準はどうなっているのか。

→ワークショップにおいて、防賀川の切り下げから歴史、生態系、地域の意見などを学んだ。過去の防賀川の植生や、育てやすい樹種を調べ選定した。

→四季を通じて楽しめ、地域にあった樹種が望ましい。近年サクラは防除に手がかかることもあり、あまり植えられない傾向がある。- ・京田辺市では近隣の防賀川公園でサクラを植える計画をもっている。

→山野に自生しているサクラとの交雑が懸念されるため、ソメイヨシノの植樹には注意が必要である。その他、園芸用のツバキについても交雑の報告があり、注意すべきである。

## ■平成 24 年度活動計画について

- ・京都府ではパートナーシップ事業を行っており、河川関係の団体との連携も増えてきている。それら団体との連携・協力を視野に入れてほしい。来年度からは地域提案型事業がはじまる予定であり、住民等から提案のあった事業を検討し、予算をつけることができるようになるので、活動の参考にしてほしい。公園管理者等と協議し、山城総合運動公園（太陽が丘）において展示

などで河川レンジャーが参加できるようなイベント等も検討したい。

- ・木津川管内の河川レンジャーはそれぞれに得意な分野があり、さまざまな場面で自治体に協力が可能である。
- ・管理団体や市の担当者に河川レンジャーが話を出来る場所、機会を設けていただきたい。特に公園利用者、体育協会関係者等には河川のことを学んでほしいと考えている。

<田中河川レンジャー>

- ・河床低下は木津川の重要な課題であるとともに、出水などで流路の変化もある。子どもたちとともに継続的に変化を見守っていただきたい。

<山田河川レンジャー>

- ・川づくりにむけ、様々な地域の団体との連携を大きな柱として考えている。
- ・水質調査については、手軽に使用されているパックテストではなく、ユニメーターを使用し測定を行っている。

→学会でも通用する正確なデータであると考えられる。

- ・精華町では煤谷川の水質調査を行っているが、データ提供をお願いできないか。

→川に水がないことが多く、これまで調査を見送ってきている。状況が変わっていれば取り組みたい。

→水無川と呼ばれているようであるが、農閑期には水が流れている。

→年間を通じて水が流れるようになり、生態系が回復した川の例もある。水枯れを起こさない工夫が必要ではないか。

→河川レンジャーは行政と住民の橋渡し役であるので、自治体からもぜひ要望を寄せてほしい。積極的に河川レンジャーを活用していただきたい。

## ■新規河川レンジャー展開計画について

- ・提案どおりで異議なし

## ■その他、次年度の河川レンジャー募集について

- ・各自治体には広報誌、ホームページ等への掲載でPR等、さまざまな形での広報のご協力をお願いしたい（事務局）。

以上

第 13 回木津川出張所管内  
河川レンジャー運営会議 出席者名簿

分 類	氏 名	所 属 等	備 考
地元見識者	たにくち みちこ 谷口 美智子	NPO法人「京・流れ橋食彩の会」理事長	
	みつだ しげゆき 光田 重幸	同志社大学 理工学部環境システム学科 准教授	運営会議代表者
河川レンジャー	やまむら たけまさ 山村 武正	木津川出張所管内河川レンジャー	運営会議代表河川レンジャー
	ふくい なみえ 福井 波恵	木津川出張所管内河川レンジャー	
	たなか みちよ 田中 実知世	木津川出張所管内河川レンジャー	
	やまだ のぶひと 山田 信人	木津川出張所管内河川レンジャー	
沿川自治体	なわ よしまさ 名和 喜祐	京都府 山城北土木事務所 管理室 室長	
	しんどう ひろのり 新道 広知	八幡市都市整備部 道路河川課長	
	おくだ やすし 奥田 泰嗣	久御山町 事業建設部 建設整備課 課長	
	しまもと いちろう 嶋本 市朗	城陽市 都市管理部 土木課長	
	たかだ ふとし 高田 太	京田辺市 建設部 施設整備課 課長	
	うらにし いくお 浦西 伊久夫	精華町 事業部 監理課 課長	
	まつした さとし 松下 三十年	木津川市 建設部 管理課 課長	
	おくやま ひでたか 奥山 英高	井手町 建設課 課長	欠席
国土交通省	いのうえ たかよし 井上 高好	近畿地方整備局 淀川河川事務所 木津川張所 所長	

五十音順(地元見識者)、敬称略